「クリスマスの恵み」Ⅰヨハネ４：１４　　１８・１２・２３

Ⅰ　父なる神の愛の恵み

「私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、その証しをしています」Ⅰヨハネ４：１４

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪（憎しみ、恨み、ねたみ、陰口、悪口、うそ、ごまかし、不正、神と人への感謝がない心）のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」４：９，１０。

私達は、自分の愛する子を、または、大切な人を、悪い国の人々を救う為に、その人々の罪を償う為に、身代わりに死なせる為に、大切な子、または大切な人を、その悪い国に遣わすだろうか？

私には決してできない！

父なる神は、大切な大切な愛するひとり子を私達の罪の為に十字架で死なせるために、クリスマスに、この世に遣わして下さった！

何という恵み、愛！心から感謝します。

今、その主を信じる時、私達に赦しと新しい命が与えられる。

Ⅱ　御子なるキリストの愛とへりくだりの恵み

「それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。
キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。
キリストは、神の御姿であられるのに、
神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、
人間と同じようになられました。
人としての姿をもって現れ、
自らを低くして、死にまで、
それも十字架の死（私達の罪の身代わりの死、極悪人の刑、神に呪われた者の死）にまで従われました。
それゆえ神は、この方を高く上げて（復活と昇天）、
すべての名にまさる名を与えられました。
それは、イエスの名によって、
天にあるもの、地にあるもの、
地の下にあるものすべてが膝をかがめ、
すべての舌が
『イエス・キリストは主です』と告白して、
父なる神に栄光を帰するためです」ピリピ２：４－１１。

※証し

「私たちの大祭司（神と人の仲介者、救い主）は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」ヘブル４：１５，１６。

もし神である偉大なキリストが、「快適な天国から降りて、へりくだり、人、赤ちゃんにまでなられ、多くの試みと弱さを経験され、最後は、人々の罪の為に、十字架で壮絶な苦しみを受け、死ななければならない」この道を拒否なさったら、クリスマスも十字架による救いもなかった。

しかし、主は、御父に従い、私達を愛し、私達の救いの為に、クリスマスに人となられ、３３歳の時に私達の罪の償いの為に十字架で死なれた。

感謝します！
私達が、主キリストの立場なら、この愛とへりくだりと苦しみの道を選んだだろうか？
この問いを自分に問いながらクリスマスを過ごしたい。感謝があふれて来る！

Ⅲ　神である聖霊の愛と恵み

「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです」マタイ１：２０

御使いは彼女（マリア）に答えた。

「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます」ルカ１：３５

ダビデとマリアが普通の結婚関係で、子供が生まれるなら、その子は、アダム以来の罪を宿す者として生まれる事になる。そうすると「生まれる子は聖なる者（心に罪の性質が全くない聖なる者）」ではなくなる。罪の性質のある子は、人類の罪を背負い、身代わりに死に、償いをする資格がなくなる。

そうならないために、救い主キリストは、ヨセフとマリアが正式に結婚する前に、聖霊なる神が、マリアに臨まれ、いと高き方である御聖霊がマリアをおおい、マリアの胎に救い主キリストを宿らせられたのである。

御聖霊の奇蹟による受胎。

キリストは、人としても罪の性質をもたない方であり、生涯、何の罪（行いの罪も、心、思いの罪も、口の過ちも）も犯されなかった。これまでの人類の中にこのような完全に聖い人はいない。

「キリストは罪を犯したことがなく、
　その口には欺きもなかった。
　ののしられても、ののしり返さず、
　苦しめられても，脅すことをせず、
　正しくさばかれる方にお任せになった。
　キリストは自ら十字架の上で、
　私たちの罪（憎しみ、恨み、ねたみ、不平不満、感謝のない心、うそ、欲張り、不正、イエス様を追い出す心）をその身に負われた」Ⅰペテロ２：２２－２４

「実に、肉のいのちは血の中にある。…いのちとして宥めを行うのは血である」レビ１７：１１。

※証し

Ⅳ　マリアの胎に宿られたキリストが、私達の心に宿られる恵み

１．「マリアは月が満ちて、男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」ルカ２：６，７。

救い主イエス様を喜んで迎える宿屋はなかった。

これは、私達人間の姿を象徴している。

聖霊なる神が、私達の心に働きかけてくださらなければ、私達は、救い主イエス様を喜んで心に迎えようとはしない。私もそうでした。

※証し

２．しかし、救い主イエス様は、現在、私達の心の戸をたたき続けて下さっている。

このクリスマスの時に救い主イエス様を心の戸を開いて、迎え入れましょう。

クリスチャンの人は、このクリスマスに、イエス様を心の王座に迎え入れましょう！

「見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼と共に食事をし（親しい交わりをし）、彼もわたしとともに食事をする（親しい交わりをする）」黙示録３：２０